

広島市感染症週報

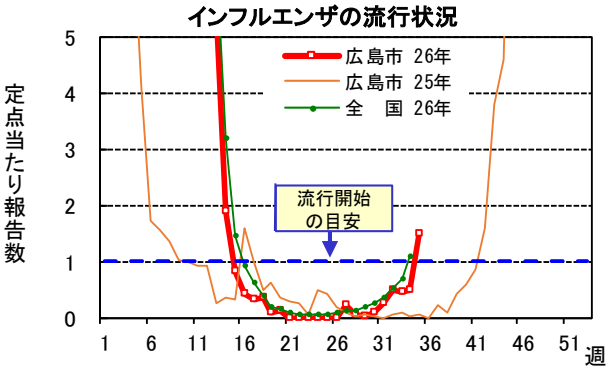
広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

コメント

1 インフルエンザ

定点当たり1.50人の報告があり、前週の3倍に増加しました。流行開始の目安となる定点当たり1.00人を上回り、昨年より7週間早く流行期に入りました。また、8月31日に、2026/27シーズン初めてのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が報告されました。全国でも流行入りが発表されており、注意が必要です。手洗いの励行、咳エチケット、換気など、感染予防対策を徹底しましょう。(次ページ参照)

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第35週 A型:7人、B型:0人



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり1.43人の報告があり、前週と比べて増加しました。春～初夏と冬に増加する傾向がありますが、年間を通じて報告があります。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、苺舌などの症状が現れます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

3 腸管出血性大腸菌感染症

今年の累計は49件となりました。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1331	39.15			小児科	突発性発しん	7	0.33	0.31	
	インフルエンザ	51	1.50	0.43			ヘルパンギーナ	12	0.57	0.67	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	13	0.38				流行性耳下腺炎	1	0.05	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	6	0.29	1.06		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	5	0.24	0.28			流行性角結膜炎	5	0.63	0.40	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	1.43	1.15		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	92	4.38	2.99			無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	水痘	3	0.14	0.08			マイコプラズマ肺炎	1	0.17	1.27	
	手足口病	25	1.19	2.19			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	3	0.14	0.60			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	88	20歳代・推定感染地域: 国外、70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	49	30歳代・O血清群不明・市外
4	レジオネラ症	1	21	80歳代
5	梅毒	4	86	20歳代・1人、40歳代・2人、50歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	新型コロナウイルス (COVID-19)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第31週	1,638	8	16	6	6	35	78	4	71	-	5	19	1	-	2	-	-	-	-	-	-
		第32週	1,376	16	18	13	9	30	79	7	53	-	6	20	1	-	1	-	-	3	-	-	-
		第33週	651	13	13	15	3	15	34	3	15	1	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-
		第34週	1,176	17	9	4	8	16	82	3	28	-	7	10	-	-	4	-	-	1	-	-	-
		第35週	1,331	51	13	6	5	30	92	3	25	3	7	12	1	-	5	-	-	1	-	-	-
定点当たり	広島市	第31週	48.18	0.24	0.47	0.29	0.29	1.67	3.71	0.19	3.38	-	0.24	0.90	0.05	-	0.25	-	-	-	-	-	-
		第32週	41.70	0.48	0.55	0.65	0.45	1.50	3.95	0.35	2.65	-	0.30	1.00	0.05	-	0.13	-	-	0.50	-	-	-
		第33週	22.45	0.45	0.45	0.88	0.18	0.88	2.00	0.18	0.88	0.06	-	-	-	-	-	-	0.17	1.00	-	-	-
		第34週	34.59	0.50	0.26	0.19	0.38	0.76	3.90	0.14	1.33	-	0.33	0.48	-	-	0.50	-	-	0.17	-	-	-
		第35週	39.15	1.50	0.38	0.29	0.24	1.43	4.38	0.14	1.19	0.14	0.33	0.57	0.05	-	0.63	-	-	0.17	-	-	-
	全国	第33週	29.66	0.69	1.12	0.51	0.18	0.82	2.11	0.18	2.41	0.02	0.19	0.69	0.03	0.01	0.35	0.02	0.05	0.45	0.02	0.02	0.02
		第34週	36.30	1.11	1.18	0.49	0.26	1.09	3.29	0.27	2.04	0.04	0.29	0.67	0.04	0.01	0.84	0.01	0.05	0.44	0.02	0.01	0.01

■ 病原体検出状況(ARIサーベイランス)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A H3N2	インフルエンザウイルス A H1N1	B型インフルエンザウイルス (ヒクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第30週	16	14					2		2	2	3		1		3	1	2
第31週	15	9	1				1				3		2		1		1
第32週	11	5					1			1			2		1		
第33週	5	5						1	1		1		1		2	1	1
第34週	14	9	1	1						1	2	1			3	2	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む(検査: 広島市衛生研究所)

詳しくはホームページで [広島市 病原体](#)  検索 

【参考】インフルエンザを予防するための注意点

例年、流行が始まると急激に患者が増加します。以下の点に注意し、感染予防に努めましょう。
特に基礎疾患(腎臓疾患、心臓疾患、呼吸器疾患等)をお持ちの方や、妊婦、高齢者、乳幼児は合併症を起こしたり、重症化することもありますので注意が必要です。

- ◆ 外出後は、流水・せっけんによる手洗いをを行う。
- ◆ 咳やくしゃみ等の症状のある時はマスクの着用など咳エチケットを心がける。

【咳エチケットとは】

- 咳やくしゃみをしている人は、マスクを正しく着用する。
- マスクが無い場合は、ティッシュ・ハンカチ、上着の袖などで口や鼻を覆う。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐに蓋付のごみ箱に捨てる。

- ◆ 室内では換気をし、適度な湿度(50～60%)を保つ。
- ◆ 人混みへの不必要な外出は控え、やむを得ず人混みに出る時はマスクを着用する。
- ◆ 症状などからインフルエンザが疑われる場合は、早めに医療機関を受診する。
- ◆ 普段と異なる症状がある場合には、外出、出勤、登校・登園を控える。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp